

オフセット・クレジット(J-VER)制度に基づく
温室効果ガス排出削減・吸収プロジェクト申請書別紙
モニタリングプラン

～森林管理プロジェクト用～

プロジェクト名	徳島県那賀郡那賀町における森林吸収源事業
プロジェクト代表事業者名	株式会社フォレストバンク

提出日 2009年5月15日

I. 純吸収量で考慮する温室効果ガス排出・吸収活動(方法論項目3)

プロジェクト吸収量・排出量				
吸収源(炭素プール)	吸収活動の説明	プロジェクト吸収量	温室効果ガス	備考
地上部バイオマス	森林経営活動(間伐)の実施により、追加的に地上部バイオマスが蓄積される。	853.88	CO2	
地下部バイオマス	森林経営活動(間伐)の実施により、追加的に地下部バイオマスが蓄積される。	213.47	CO2	
排出源	排出活動の説明	プロジェクト排出量	温室効果ガス	備考
主伐による地上部バイオマス分の排出量	森林経営活動(主伐)の実施により、蓄積されていた地上部バイオマス中のCO2が排出される。	当プロジェクトにおける森林経営活動および森林施業計画において、主伐は計画されていない。	CO2	
主伐による地下部バイオマス分の排出量	森林経営活動(主伐)の実施により、蓄積されていた地下部バイオマス中のCO2が排出される。	当プロジェクトにおける森林経営活動および森林施業計画において、主伐は計画されていない。	CO2	

※ 欄が足りない場合には追加して記入すること。

II. 算定式（方法論項目5）

5-1. 吸収量(地上部バイオマス)の算定 ※方法論を参照し、以下に吸収量の算定式及び値を記入する。

$\Delta C AG = \sum \Delta C AG_i = \sum (\text{Area Forest}_i \times \Delta \text{Trunk sc}_i \times \text{BEF}_i \times \text{WD}_i \times \text{CF} \times 44/12)$	
$\Delta C AG_i = 225.79 + 458.96 + 169.13$	
$\Delta C AG = 853.88$	
$\Delta CAG_1 =$	225.79 木頭 折宇字蔭谷10,11
$\Delta CAG_2 =$	458.96 木頭 北川字千本10-4,10-5
$\Delta CAG_3 =$	169.13 木頭 折宇字大谷山2-1
$\Delta C AG_i$ 森林経営活動(間伐)に基づく、階層IIにおける地上部バイオマス中の年間CO2吸収量(t-CO2/年) Area Forest 階層IIにおいて森林経営活動(間伐)が実施された森林面積(ha) $\Delta \text{Trunk sc}_i$ 収穫予想表等に基づく、階層IIにおける単位面積あたりの幹材積の年間成長量(m ³ /ha/年) BEF _i 階層IIにおける幹材積の成長量に枝葉の成長量を加算補正するための係数 WD _i 階層IIにおける成長量(材積)をバイオマス(乾燥重量)に換算するための係数(t/m ³) CF 樹木の乾燥重量から炭素量に換算するための炭素比率(0.5) i 1,2,3... プロジェクト実施対象地における階層(地形、植採樹種等の森林成長量に関する層:地位級) ※計算式の詳細は別添プロジェクト吸収量算定台帳のとおり	

5-2. 吸収量(地下部バイオマス)の算定 ※方法論を参照し、以下に吸収量の算定式及び値を記入する。

$\Delta C BG = \sum \Delta C BG_i = \sum (\Delta CAG_i \times R \text{ ratio}_i)$	
$\Delta C BG_i = 853.88 \times 0.25$	
$\Delta C BG = 213.47$	
$\Delta C BG_1 =$	56.45 木頭 折宇字蔭谷10,11
$\Delta C BG_2 =$	114.74 木頭 北川字千本10-4,10-5
$\Delta C BG_3 =$	42.28 木頭 折宇字大谷山2-1
$R \text{ ratio}_i = 0.25$ $\Delta C BG_i$ 森林経営活動(間伐)に基づく、階層IIにおける地下部バイオマス中の年間CO2吸収量(t-CO2/年) $R \text{ ratio}_i$ 階層IIにおける地上部バイオマス中の年間CO2吸収量に、地下部(根)を加算補正するための係数 i 1,2,3... プロジェクト実施対象地における階層(地形、植採樹種等の森林成長量に関する層:地位級) 対象林分毎の吸 $R \text{ ratio}_i$ 階層IIにおける地上部バイオマス中の年間CO2吸収量に、地下部(根)を加算補正するための係数 ※計算式の詳細は別添プロジェクト吸収量算定台帳のとおり	

6-1. プロジェクト排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

なし

※欄が足りない場合は適宜欄を追加して記入すること。

Ⅲ. モニタリング詳細－活動量－(方法論項目5)

モニタリング内容	パラメータ		測定方法 (モニタリングパターン)	測定方法の詳細	測定頻度	測定機器の確認		計画値 [単位]	備考
	方法論に記載されているパラメータを記入	モニタリング対象となる活動量の説明							
モニタリングポイントの番号 (間伐等の森林施業を実施したサイトの通し番号)を記入			測定方法・データ把握方法を記入 (モニタリング方法ガイドラインにあるパターンから選択)	事業者自ら実測を行う場合、具体的な測定方法を記入 (記入された測定方法により、第三者が同じ調査を実施できるよう詳細情報を記入のこと)	測定頻度を記入	モニタリング方法ガイドラインを参照し、測定機器のキャリブレーションを行ったかチェックする	キャリブレーション実施日	想定吸収量の算定に使用した値を記入	特筆すべき事項があれば記入
6-1	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、GPSもしくはコンパスを用いて測量する	年1回	○	—	18.2ha	蔭谷地区(林班:693 小班:イ)
6-2	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、GPSもしくはコンパスを用いて測量する	年1回	○	—	18.2ha	蔭谷地区(林班:693 小班:イ)
6-3	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、GPSもしくはコンパスを用いて測量する	年1回	○	—	16.1ha	千本谷A地区(林班:721 小班:イ)
6-4	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、GPSもしくはコンパスを用いて測量する	年1回	○	—	20.1ha	千本谷B地区(林班:718 小班:イ)
6-5	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、GPSもしくはコンパスを用いて測量する	年1回	○	—	20.1ha	千本谷B地区(林班:718 小班:イ)
6-6	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、GPSもしくはコンパスを用いて測量する	年1回	○	—	10.36ha	千本谷B地区(林班:718 小班:イ)
6-7	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、GPSもしくはコンパスを用いて測量する	年1回	○	—	25.77ha	大谷山地区(林班:635 小班:ハ)

Ⅲ. モニタリング詳細－各種係数－(方法論項目5)

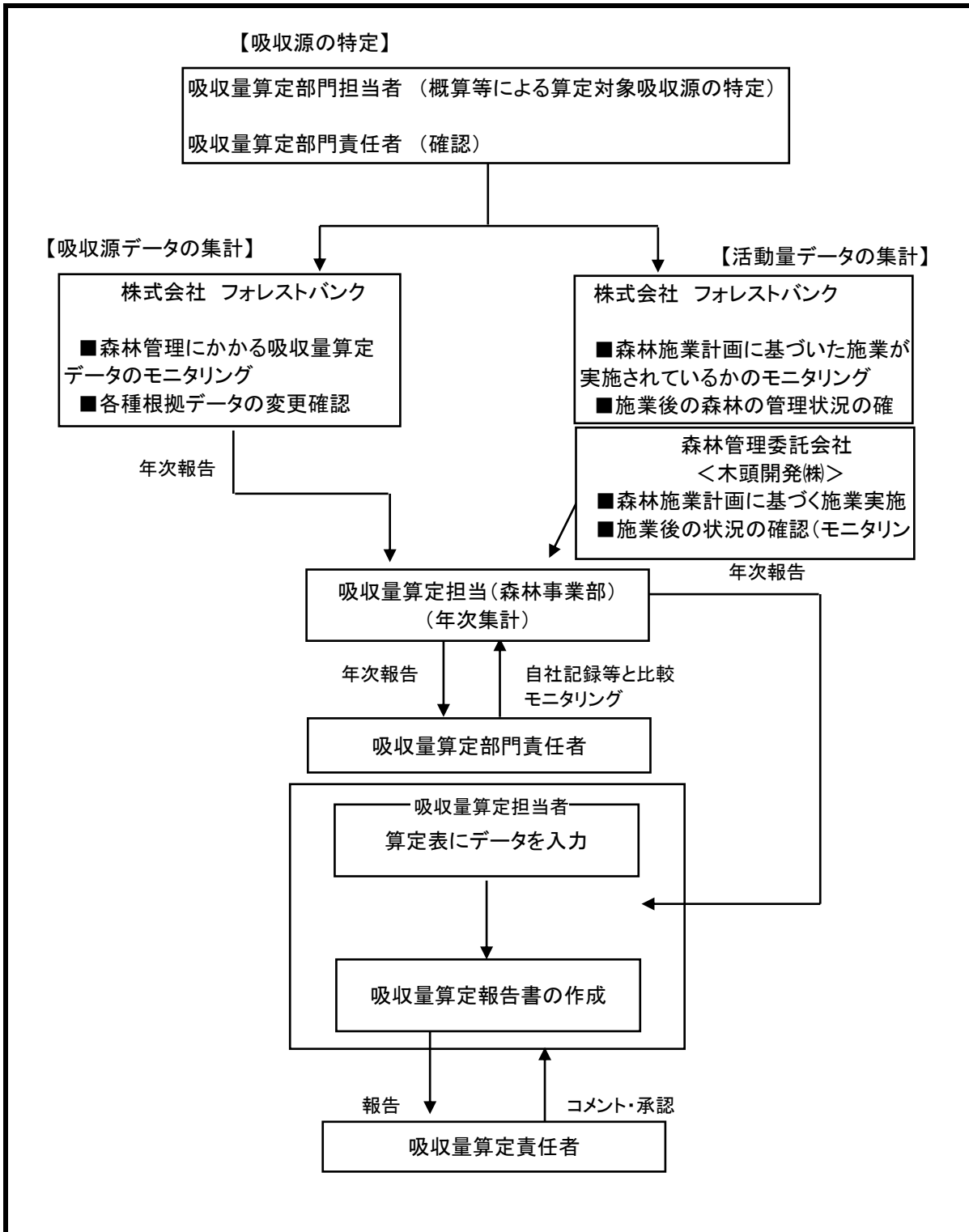
モニタリングポイントNo	パラメータ		測定方法 (モニタリングパターン)	測定方法の詳細	測定頻度	測定機器の確認		計画値 [単位]	備考
モニタリングポイントの番号(間伐等の森林施業を実施したサイトの通し番号)を記入	方法論に記載されているパラメータを記入	モニタリング対象となるパラメータの説明	測定方法・データ把握方法を記入(モニタリング方法ガイドラインにあるパターンから選択)	パラメータを引用する場合は、詳細資料をVI備考欄に添付すること 事業者自ら実測を行う場合は、具体的な測定方法を記入すること (記入された測定方法により、第三者が同じ調査を実施できるよう詳細情報を記入のこと)	測定頻度を記入	モニタリング方法ガイドラインを参照し、測定機器のキャリブレーションを行ったかチェックする	キャリブレーション実施日	想定吸収量の算定に使用した値を記入	特筆すべき事項があれば記入
2-1(蔭谷地区)	Trunk	幹材積増加量	LYCSの計算結果	LYCSを利用したパラメータを利用	年1回	○	—		別紙LYCS計算結果参照
2-2(千本地区)	Trunk	幹材積増加量	LYCSの計算結果	LYCSを利用したパラメータを利用	年1回	○	—		別紙LYCS計算結果参照
2-3(大谷地区)	Trunk	幹材積増加量	LYCSの計算結果	LYCSを利用したパラメータを利用	年1回	○	—		別紙LYCS計算結果参照
3	BEF	拡大係数	「京都議定書3条3及び4の下でのLULUCF活動の補足情報に関する報告書4」	「京都議定書3条3及び4の下でのLULUCF活動の補足情報に関する報告書5」で示された森林種樹種の拡大係数、枝根率、容	年1回			1.23	杉
4	WD	容積密度数	同上	同上	年1回			0.314	杉
5	R	枝根率	同上	同上	年1回			0.25	杉
6-1(蔭谷地区)	LYCS計算	対象林分面積	実測(森林測量)に基づく方法	補助金を受ける際に実測した面積をモニタリングでの実測結果として代用する	—	○	—	18.2	間伐後に写真撮影を行う
6-2(蔭谷地区)	LYCS計算	対象林分面積	同上	同上	—	○	—	18.2	同上
6-3(千本地区)	LYCS計算	対象林分面積	同上	同上	—	○	—	16.1	同上
6-4(千本地区)	LYCS計算	対象林分面積	同上	同上	—	○	—	20.1	同上
6-5(千本地区)	LYCS計算	対象林分面積	同上	同上	—	○	—	20.1	同上
6-6(千本地区)	LYCS計算	対象林分面積	同上	同上	—	○	—	10.36	同上
6-7(大谷地区)	LYCS計算	対象林分面積	同上	同上	—	○	—	25.77	同上
7	LYCS計算	地位級	LYCSのマニュアルに従って樹高測定を行い、地位の修正を行う	施業計画に記載されている樹高と合うようにLYCSの地位の設定を行う	—			3	
8	LYCS計算	初期立木本数	1haあたりの平均植栽本数(固定値)	—	—			3000	
9	LYCS計算	直径	土佐地方スギ自動計算	—	—				別紙LYCS計算結果参照

記入方法の説明

○
×

IV. モニタリング体制図

モニタリング体制図を以下に記載すること。



V. 品質保証(QA)及び品質管理(QC)

吸収量の質を確保するため、森林管理方法(定期的な林況チェック等)、施業効率の改善(教育・訓練)、機器の点検、及び成長量に関するデータ管理の仕組みや手順(QA及びQC)について以下に記載すること。

・担当者に対する教育・訓練計画の作成・実施

対象項目	実施内容
対象者、教育内容、実施時期、教育記録	プロジェクトの吸収量の質を確保するため、森林事業部の社員に対して、林業および森林管理の手法、吸収量算定等に係る教育を年1回行い、その結果を記録する。
現地測定者(面積測定・樹高測定)の技量確保の方法(教育・訓練・資格・経験年数など)	現地測定者の技量確保のため、林業技士等の資格の取得を推奨し、現場における教育を継続的に行う。また、測定に関する精度の確保のために教育、訓練を行う。
データ・記録の保管・管理	原始記録及びその他記録類についても森林事業部の管理のもと、適切に書庫に最低10年間保管するものとする。また、森林管理に関するデータについては、随時森林事業部の管理データフォルダに保管し、外部のデータセンターでのバックアップを定期的に行う。

・データの確認(測定データ・算定結果の第三者チェック)

確認者	森林管理委託会社からの情報を森林事業部において入手し、森林事業部長が確認を行う。
確認方法	森林管理に関する測定データについては、収集単位の確認、野外調査帳と算定ファイルの突き合わせ、使用した係数等の妥当性の確認、他の関係データとの比較、経年的なデータ変化や林分間の比較、恣意的データ・はずれ値の識別等、内部的な資料との整合性だけでなく、公的機関が発表する資料やインターネット等を通じて入手される外部資料との整合性を確認する。
サンプリング頻度	測定データについてその正確性が確認される範囲内においてサンプリングによる試査を行う。場合によってはすべての項目を対象としてチェックを行う。
確認記録	データを確認した記録は、実際にチェックした部分にレ点などでマークし、第三者の確認した部分が、検証時に確認できるように記録し、適切に森林事業部の書庫に保管し、最低10年間保存する。

・計測器の維持・校正管理

機器リスト	GPSもしくはコンパスを用いて測量する
校正方法	複数回測定した結果を記録し、その平均値を算定し当初素量した結果との乖離をチェックする。
許容精度	計測機器の許容精度は、マテリアリティ(重要性)5%の観点から、測定下限値の1/2程度とする。
校正記録	校正記録は書面あるいはデータとして最低10年間保管する。

・発注先管理

現地測定は森林管理委託会社に委託する。森林吸収源プロジェクトにおける、対象となる現地の山林を熟知している会社を発注先として採用する。森林管理会社による定期的な林況チェックに関して、ヒアリングにより状況を確認する。また、定期的な林況に関するデータを入手し、吸収源プロジェクトの継続性が維持されているかを確認する。

・法令順守

森林・林業基本法・森林法・森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法(間伐等促進法)・種の保存法・鳥獣保護法・騒音規制法・景観法・廃棄物の処理及び清掃に関する法律・環境影響評価法などの法律への遵守が行われているかにつき、森林管理委託業者の管理のもと、定期的に確認を行い、その結果を記録する。

・内部監査

森林事業部担当取締役以外の管理部門の取締役の主管において、内部監査を実施する。内部監査は、1年に1回定期的において施業計画、モニタリング計画との整合がとれているかどうかについて第三者的チェックを行う。

・不適合処理、是正処置

不適合が発見された場合には、森林事業部担当役員において責任をもって対処し、代表取締役の承認によって再発防止策を立案し、実行する。

VI. 備考

<関連書類>

- ・プロジェクト対象地が含まれている、市町村等に認定された森林施業計画の写し(施業対象の森林が特定される情報を含むもの)
- ・森林認証を受けている場合は、それを示す書類
- ・植林プロジェクトの場合は、植林後に森林法第5条の森林となることが証明できる書類

<森林の概要が分かる資料>

- ・プロジェクト対象の森林について、緯度・経度等の地理的情報を含んだ森林計画図(オルソ画像があれば添付)
- ・プロジェクト対象の森林の写真
 - ・小班ごとに森林の概要(立木密度、幹の形状、下草の状況など)が明確に分かる写真を添付すること
 - ・写真撮影は、モニタリング方法ガイドラインの「プロジェクト対象森林の写真撮影」を参考に行うこと
- ・プロジェクトの対象となる森林を管理している主体の組織図(会社案内等)
- ・プロジェクト申請書において、吸収・排出量の算定に用いたパラメータ等を引用した資料(文献)

Ver _____

オフセット・クレジット(J-VÉR)制度に基づく
温室効果ガス吸収プロジェクト申請書別紙
モニタリングプラン

プロジェクト名	徳島県那賀郡那賀町における森林吸収源事業
プロジェクト代表事業者名	株式会社フォレストバンク

提出日 2009年9月30日

受理日 年 月 日

最終版提出日 年 月 日

1. 純吸収量で考慮する温室効果ガス排出・吸収活動(方法論項目3)

プロジェクト吸収量・排出量

吸収活動の種類	吸収活動の説明	CO ₂ 換算吸収量	温室効果ガス	備考
他の部門からの吸収	他の部門からの吸収	他の部門からの吸収	他の部門からの吸収	他の部門からの吸収
他の部門からの排出	他の部門からの排出	他の部門からの排出	他の部門からの排出	他の部門からの排出
排出源	排出活動の説明	CO ₂ 換算排出量	温室効果ガス	備考
燃焼による排出	燃焼による排出	燃焼による排出	燃焼による排出	燃焼による排出
工業プロセスによる排出	工業プロセスによる排出	工業プロセスによる排出	工業プロセスによる排出	工業プロセスによる排出
土地利用変化と林業による排出	土地利用変化と林業による排出	土地利用変化と林業による排出	土地利用変化と林業による排出	土地利用変化と林業による排出
その他の排出	その他の排出	その他の排出	その他の排出	その他の排出

記入不要

※ 欄が足りない場合には追加して記入すること。

II. 算定式（方法論項目5）

4. 純吸収量の算定 ※下記5-1から6-1に基づき、プロジェクトによる純吸収量を算定し、値を記入する。

$\Delta C_{total} = \Delta CFM - \Delta C_{Base}$
$\Delta C_{total} = \Delta CAG + \Delta CBG - \Delta C_{Base}$
$\Delta C_{total} = 853.88 + 213.47 - 0$
$\Delta C_{total} = 1067.35$
ΔC_{total} 人為的純吸収量(t-CO ₂ /年)
ΔCFM 森林経営活動(間伐)に基づく、年間のCO ₂ 吸収量(t-CO ₂ /年)
ΔC_{Base} 森林経営活動(間伐)対象地のベースラインCO ₂ 吸収量(t-CO ₂ /年)
ΔCAG 地上部バイオマス中の年間CO ₂ 吸収量(t-CO ₂ /年)
ΔCBG 地下部バイオマス中の年間CO ₂ 吸収量(t-CO ₂ /年)

純吸収量(地上部バイオマス)の算定 ※方法論を参照し、以下に純吸収量の算定式及び値を記入する。

純吸収量(地下部バイオマス)の算定 ※方法論を参照し、以下に純吸収量の算定式及び値を記入する。

地上部バイオマス中の純吸収量の算定 ※方法論を参照し、以下に地上部バイオマス中の純吸収量の算定式及び値を記入する。

地下部バイオマス中の純吸収量の算定 ※方法論を参照し、以下に地下部バイオマス中の純吸収量の算定式及び値を記入する。

記入不要

7. プロジェクト排出量の算定 ※方法論を参照し、以下にプロジェクト排出量の算定式及び値を記入する。

なし

※欄が足りない場合は適宜欄を追加して記入すること。

Ⅲ. モニタリング詳細－活動量－(方法論項目5)

モニタリング ポイントNo.	小班名	パラメータ		測定方法 (モニタリングパター ン)	測定方法の詳細	測定頻度	測定機器 の確認		計画値 [単位]	備考
		方法論に 記載されて いるパラ メータを記 入	モニタリ ング対象と なる活動量 の説明							
モニタリング ポイントの番 号 (間伐等の森 林施業を実 施したサイト の通し番号) を記入	モニタリング ポイントの番 号に対応す る小班名を 記入(同一小 班名は識別 可能な方法 で記述)			測定方法・データ把握 方法を記入 (モニタリング方法ガイ ドラインにあるパターン から選択)	事業者自ら実測を行う場合、具 体的な測定方法を記入 (記入された測定方法により、 第三者が同じ調査を実施でき るよう詳細情報を記入のこと)	測定頻度 を記入	モニタリング 方法ガイドラ インを参照 し、測定機器 のキャリブ レーションを 行ったか チェックする	キャリブレ ーション実施日	想定吸収量 の算定に使用 した値を 記入	特筆すべき事項があれば 記入
6-1	蔭谷地区(林 班:693 小 班:イ)	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基 づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、 GPSもしくはコンパスを用いて 測量する	年1回	○	—	25.4ha	
6-2	蔭谷地区(林 班:693 小 班:イ)	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基 づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、 GPSもしくはコンパスを用いて 測量する	年1回	○	—	11.0ha	
6-3	千本谷A地区 (林班:721 小班:イ)	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基 づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、 GPSもしくはコンパスを用いて 測量する	年1回	○	—	16.1ha	
6-4	千本谷B地区 (林班:718 小班:イ)	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基 づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、 GPSもしくはコンパスを用いて 測量する	年1回	○	—	16.69ha	
6-5	千本谷B地区 (林班:718 小班:イ)	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基 づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、 GPSもしくはコンパスを用いて 測量する	年1回	○	—	23.51ha	
6-6	千本谷B地区 (林班:718 小班:イ)	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基 づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、 GPSもしくはコンパスを用いて 測量する	年1回	○	—	10.36ha	
6-7	大谷山地区 (林班:635 小班:ハ)	AreaForest	間伐面積	実測(森林測量)に基 づく方法	間伐が実施された箇所ごとに、 GPSもしくはコンパスを用いて 測量する	年1回	○	—	25.77ha	

Ⅲ. モニタリング詳細－各種係数－(方法論項目5)

モニタリング ポイントNo	小班名	樹種	パラメータ		測定方法 (モニタリングパターン)	測定方法の詳細	測定頻度	測定機器 の確認		計画値 [単位]	備考
			各種係数 に対応する 樹種名を 記入	方法論に 記載されて いるパラ メータを 記入				モニタリ ング対象と なるパラメ ータの説明			
モニタリング ポイントの番 号 (間伐等の森 林施業を実 施したサイ トの通し番 号)を記入	モニタリングポイントの番号に対応 する小班名を記入(同一小班名は 識別可能な方法で記述)	各種係数 に対応する 樹種名を 記入	方法論に 記載されて いるパラ メータを 記入	モニタリ ング対象と なるパラメ ータの説明	測定方法・データ把握方法を記入 (モニタリング方法ガイドラインにある パターンから選択)	パラメータを引用する場合は、詳細資料をⅦ 備 考に添付すること 事業者自ら実測を行う場合は、具体的な測定方 法を記入すること (記入された測定方法により、第三者が同じ調 査を実施できるよう詳細情報を記入のこと)	測定頻度 を記入	モニタリ ング方法ガイ ドラインを参 照し、測定機 器のキャリブ レーションを 行ったか チェックする	キャリブレ ーション実施日	想定吸収量 の算定に使 用した値を記 入	特筆すべき事項があれば記入
2-1	蔭谷地区	スギ	△Trunk	幹材積増 加量	LYCSの計算結果	LYCSを利用したパラメータを利用	年1回	○	—		別紙LYCS計算結果参照
2-2	千本地区	スギ	△Trunk	幹材積増 加量	LYCSの計算結果	LYCSを利用したパラメータを利用	年1回	○	—		別紙LYCS計算結果参照
2-3	大谷地区	スギ	△Trunk	幹材積増 加量	LYCSの計算結果	LYCSを利用したパラメータを利用	年1回	○	—		別紙LYCS計算結果参照
3	—	スギ	BEF	拡大係数	「京都議定書3条3及び4の下での LULUCF 活動の補足情報に関する報 告書4」	「京都議定書3条3及び4の下でのLULUCF 活動 の補足情報に関する報告書5」で示された森林 簿樹種の拡大係数、枝根率、容積密度数	年1回			1.23	
4	—	スギ	WD	容積密度 数	同上	同上	年1回			0.314	
5	—	スギ	R	枝根率	同上	同上	年1回			0.25	
6-1	蔭谷地区(林班:693 小班:イ)	スギ	LYCS計算	対象林分 面積	実測(森林測量)に基づく方法	補助金を受ける際に実測した面積をモニタリ ングでの実測結果として代用する	—	○	—	25.4	間伐後に写真撮影を行う
6-2	蔭谷地区(林班:693 小班:イ)	スギ	LYCS計算	対象林分 面積	同上	同上	—	○	—	11	間伐後に写真撮影を行う
6-3	千本谷A地区(林班:721 小班:イ)	スギ	LYCS計算	対象林分 面積	同上	同上	—	○	—	16.1	間伐後に写真撮影を行う
6-4	千本谷B地区(林班:718 小班:イ)	スギ	LYCS計算	対象林分 面積	同上	同上	—	○	—	16.69	間伐後に写真撮影を行う
6-5	千本谷B地区(林班:718 小班:イ)	スギ	LYCS計算	対象林分 面積	同上	同上	—	○	—	23.51	間伐後に写真撮影を行う
6-6	千本谷B地区(林班:718 小班:イ)	スギ	LYCS計算	対象林分 面積	同上	同上	—	○	—	10.36	間伐後に写真撮影を行う
6-7	大谷山地区(林班:635 小班:ハ)	スギ	LYCS計算	対象林分 面積	同上	同上	—	○	—	25.77	間伐後に写真撮影を行う
7	—	スギ	LYCS計算	地位級	LYCSのマニュアルに従って樹高測定 を行い、地位の修正を行う	施業計画に記載されている樹高と合うように LYCSの地位の設定を行う	—			3	
8	—	スギ	LYCS計算	初期立木 本数	1haあたりの平均植栽本数(固定値)	—	—			3000	
9	—	スギ	LYCS計算	直径	土佐地方スギ 自動計算	—	—				別紙LYCS計算結果参照

IV. モニタリング体制図

温室効果ガス吸収プロジェクト申請書別紙

記入不

V 品質保証(QA)及び品質管理(QC)

森林管理計画(定額)の施行予定(予定)の施業効果の改善(改善)の経緯、機器の点検、及び作業員に関する
管理の経緯から申請(QA/QC)に必要と思われる事項を記載する。

記入不要

※独自の様式や手順書等を作成している場合には本様式に添付しても良い。

参考：不確実性記入例

モニタリングポイント、小班名、樹種、面積、拡大係数、R率、容積密度、炭素係数、収穫予想表の値を下記のとおり記入し、モニタリング方法ガイドラインより、それぞれの不確実性値をVI-1不確実性(入力)シートに入力する。これにより、不確実性値は、VI-2不確実性(算定)シートにおいて、自動的に計算される。

モニタリング	小班名	樹種	a. 面積		b. 拡大係数		c. R率		d. 容積密度		e. 炭素係数		f. 収穫予想表	
			値(ha)	不確実性	値	不確実性	値	不確実性	値	不確実性	値	不確実性	値(m ³ /年)	不確実性
モニタリングポイントの番号 (間伐等の森林実施したサイトの通し番号)を記入	モニタリングポイントの番号 に対応する小班名を記入(同一小班名は識別可能な方法で記述)	植栽されている樹種名を記入	申請対象となる小班の面積を記入	モニタリング方法ガイドラインに記載されている面積の不確実性を記入	方法論に記載されている対象樹種の拡大係数を記入	モニタリング方法ガイドラインに記載されている面積の不確実性を記入	方法論に記載されている対象樹種の拡大係数を記入	モニタリング方法ガイドラインに記載されている面積の不確実性を記入	方法論に記載されている対象樹種の拡大係数を記入	モニタリング方法ガイドラインに記載されている面積の不確実性を記入	方法論に記載されている対象樹種の拡大係数を記入	モニタリング方法ガイドラインに記載されている面積の不確実性を記入	各都道府県において使用される収穫予想表から適切なものを選定し記入	モニタリング方法ガイドラインに記載されている面積の不確実性を記入
1	○○小班X	その他	27.20	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
2	○○小班X	その他	21.72	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
3	○○小班X	その他	1.68	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
4	○○小班X	その他	4.80	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
5	○○小班X	その他	1.00	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
6	○○小班X	その他	0.36	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
7	○○小班X	その他	2.56	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
8	○○小班X	その他	2.20	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
9	○○小班X	その他	24.68	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
10	○○小班X	その他	12.72	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
11	○○小班X	その他	54.56	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
12	○○小班X	その他	5.16	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
13	○○小班X	その他	5.04	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
14	○○小班X	その他	3.48	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
15	○○小班X	その他	20.00	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
16	○○小班X	その他	4.04	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
17	○○小班X	その他	1.92	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
18	○○小班X	その他	29.82	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
19	○○小班X	その他	0.08	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
20	○○小班X	その他	2.76	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
21	○○小班X	その他	0.08	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
22	○○小班X	その他	4.76	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
23	○○小班X	その他	2.24	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
24	○○小班X	その他	1.32	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
25	○○小班X	その他	2.68	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
26	○○小班X	その他	3.96	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
27	○○小班X	その他	0.20	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%
28	○○小班X	その他	2.04	10%	1.15	24.7%	0.29	21.8%	0.404	8.8%	0.5	2.0%	10	30.0%

